

寛永諸家譜

平氏十九冊之内
清盛流

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186	(64)	
函號	76	1	



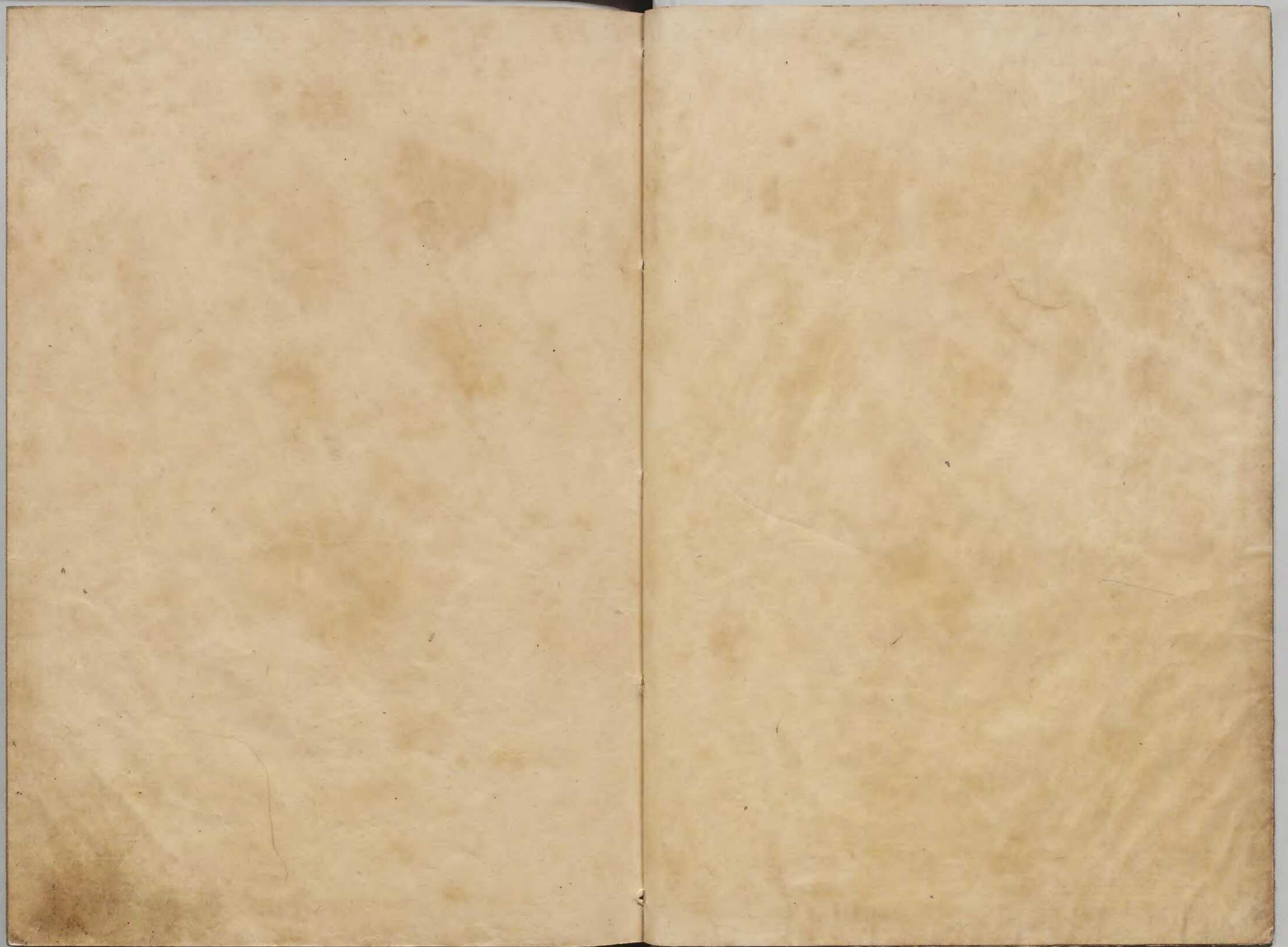
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

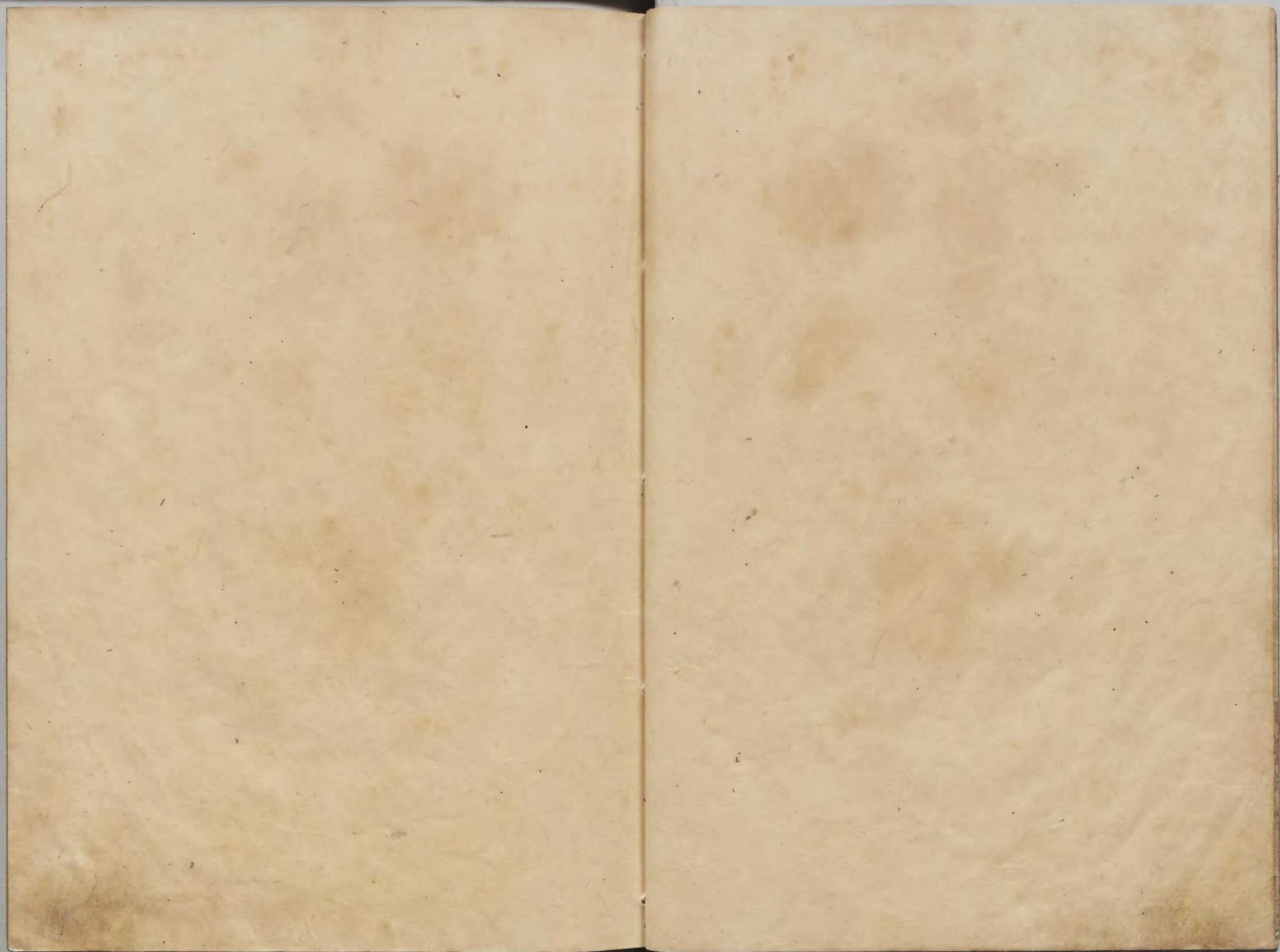
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak







織田

中川

孫掛

鴻

津田

梶川

寛永諸家系圖傳

平氏

清盛流

織田

人五十五

桓武天皇

平城天皇

寛永諸家系圖傳

三
崇徳天皇

三
淳和天皇

三
高原親王

一
式部卿

三
高棟

正二位大納言

天長元年平姓とす

三
高見

無位正官

三
高澄

後五位下
上総介

始平姓とす

良望

能守府將軍とよぶ後ごありたためめくく常陸大掾ひらけ
國香くにかと号ごうと

貞盛

能守府將軍とよぶ後ごありたためめくく常陸大掾ひらけ
淡とよ五ご佐さ下げ 淡とよ眞ま守しゅ

維衡

淡とよ心しん佐さ下げ 上かみ淡とよ心しん 淡とよ眞ま守しゅ

維將

肥ひ前ぜん守しゅ 小こ条じょう乃の祖そ

正度

越えつ前ぜん守しゅ 淡とよ五ご佐さ下げ

正衡

右近衛

左近衛

正盛

近江佐
備前

大進尉

忠盛

正四位下

刑部卿

内膳殿

院執柄

仁年三月十九日卒
年七十八

五十八

正盛

正一位太政大臣

養和元年二月七日
薨七十八

六十四
法名淨海

重盛 モリ

正二位 小松内大臣

左大将

四十二歳ニ薨ニ 法名淨蓮

外盛 モリ

三位 左中将 二十七歳ニ卒ニ

妙光

資盛 モリ

新三位 左中将

越前守

盛徳 モリ

親基 モリ

河州津田村吏

越前守 河州津田村吏

親基 ちかき

権太郎 ごんたろう

親行 ちかゆき

孫太郎 まごたろう

基行 ちかゆき

孫次郎 まごじろう

行廣 ゆきひろ

太郎共栄 たろうともさか

末廣 すえひろ

二郎 太郎共栄 じろう たろうともさか

廣定 ひろさだ

早也 はや

基實 ちかじゆ

三郎 さぶらう

廣村 ひろむら

三郎 二郎 さぶらう じろう

真昌 まこと

三郎右衛門

某 なにか

可久保早通 かひくべはやとみ

孝昌 たかむね

次郎右衛門

昌之 まさゆき

三郎五郎

孝勝 たかかつ

助次郎

常右衛門 たかむね

教廣 のりひろ

次郎右衛門

孝仁 たかひと

次郎右衛門

勝久かつひさ

二郎 淳正じゆんせい左衛門

久長ひさなが

淳正じゆんせい左衛門

敏仁とみひと

次郎九郎

敏定とみさだ

二郎

敏行とみゆき

大馬助おほうますけ

尾州岩倉の城おしゅういわくらのかき守り
新波しんは左衛門さゑもん了りやう所しよ

上かみ心こころ郡ぐん守しゆ護ご
法ほふ名な寺てら也や

信安

信濃守

尾州志念の城より

上四郡を獲

新波武衛より 法名光永

敏宗

左馬助

尾州奥田の城より

新波武衛より

定宗

後四位 尾州奥田の城より

母付系極意親の女

飯尾氏より 飯尾を以て号を

室町將軍より 御付の人数

くくの家

永祿三年五月今川義元と戦ひ

尾州籠津の城より 討死

法名寺堂

信宗

正五位上 茂物

敏尾源波

お羽子 母 細川依理大寺晴元 女

徳川信蓮 子 伯父 信長 長原 屋須

守山 草津号 領

信長 子 伯父 信隆 子 信之 後秀 子

了 信子

天正十八年 正五位下 叙

同十九年 二月 廿二 年

歳六十四

敏成

茂物

天正十年 六月 二日 洛陽 不徳

了 信子 討死

女子

女子

女子

女子

長谷川教五郎の書

實名飯尾義之助守宗の女

重宗重宗

飯尾義之助

信忠の書

天正十年判發一年一店中

号を

元和二年七月下病死歳七十七

女子

女子

右林準人と書カ

女子

浪波守信宗と書カ子コ

敏隆ウ

永沼左馬進ト

信定のよ

彈正忠だん法名月忠ツキ

信秀のよ

彈正忠だん備後守びご

天文十八年三月ノ卒シ

蔵四十二
法名桃巖

信康のぶやす

ら次郎

信光のぶみつ

孫三郎

信成のぶなり

市之助

母明儀あけのりとひ子こ討死うちはし

信昌のぶまさ

四郎三郎

千見

池田いけだとひ子こ討死うちはし

信實のぶざね

四郎次郎

信次のぶつぐ

孫十郎右衛門尉

信廣のぶひろ

三郎五郎

大隅守

母信長のぶなが

別べつ暖ぬく

信長のぶなが

小名吉法師のぶよしほうし 上かみ總すん介すけ 從よ一位いちゐ右みぎ大臣だいじん

太政大臣たいていだいじんとをく

天正十年六月二日洛陽中らやうちゆう能のぶ寺てら

一いちとくひとくひとと亮りやうとと心こころ一いち百ひゃく十九じゅうきゅう

法名ほふな恭きん嚴げん 慈じ覺かく院いんと号ごうと

信行のぶゆき

勘十郎のぶじゅうらう

武流たけりゅう

信澄のぶすみ

七五ななご

昌沈まさしずみ

之水のぶみづののぶししをを信守のぶまもり

元信もとのぶ

之水のぶみづ在ある

幼少わらわししりり織田おだ信隆のぶたかよりよりははるる

後のち秀頼ひでたかよりよりははるる

大坂おおさか御陣ごじんのの後のちりりかからられれて

東照とうしょう大行現おほゆきまりりははるる今いまももああるる

河洲かす御守ごまもり甲か賀が二に和わとといいて

此地このち二に子こ名なとといいははるる

信子

三右衛門

信也

上野分

後三位左衛門

村發

一ノ丸大と号す

享長十九年七月十日卒

とは名心器

真珠院と号す

信重

民部大輔

直政

八右衛門

高貞和尙

信則

刑部大輔 恒正位下侍従 生小山城

寛永七年正月二日卒

中一三十二 法心湯殿

惠照院と号す

信勝

上野介 十圓武院

寛永十六年十二月晦日

恒正位下侍 叙

女子

信當

孫十郎

長二十年伏見と

大権現と

台院殿と

信宗

九郎 尾州 野矢の 城 討死

信時

五郎 五郎

信興

七郎

河州 討死

秀孝

五郎

秀成

長治

長治 討死

某 ミナ

中根と号と

長 なが
登 のぼり

源五郎 竹後 たけのちのち

法持と有楽と号と

之和七年十二月十日七十

五歳と号と 卒と 正徳院と号と

長孝 ながたか

一名の長一 いなののながいち

河内守

従五位下

長則 ながのり

河内守

従五位下

頼長 よりなが

一名の秀信 いでのひでのぶ

左門

従五位下 竹後

室上寺と号と

長好 みづい

三五郎

後長 しんまが

右衛門佐

長次 ながつぐ

長政 ながまさ

左衛門佐

七回筑

享長十年後五位下しん叙しよ

長定 ながさだ

左近 さこん

尚長 ちやうなが

大和守 やまとのり

後五位下

寛永十四年十一月乙酉卒

歳四十二

女子

小川坊城守相室 こがわぼうぢやうさうしやうのむら

長種 ちやうしゆ

侍亮 しやうりやう

女子

仲尾之水 なかのすい

大云院 おほいん

女子

松平氏馬允 まつだいらのうまのり

長利ながり

又十郎

天正十年六月二日あまのていじゅうねんろくにちふたににち 京きょう於お二条にじょう

女子

清井きよい俊しゅん前まへ長なが政せい書がき

女子

神保かみほり五ご藏ざう与よ氏し信のぶ書がき

女子

大山おほやま鉄てつ女むすめ書がき

女子

飯尾いひおし隠かく波なみ也や信のぶ家け書がき

信忠

正二位右大臣中納言
秋田守 齋名
奇妙御曹司

天正十年六月下京都二条
御幸御座二十日 法名信嚴
大和院と号す

秀信

正二位波年中納言

秀則

近江位下侍
右兵衛 法名宗余

信雄

内大臣正二位 齋名宗寬御曹司

之下一名、信意 或名具豊

天正十八年入道 号す具と号す

寛永七年四月廿九日薨む七十ニ歳
は名實叡 述源院と号す

信孝

三七郎

天正十一年尾州羽田内海
辛未年 二十六

秀勝

正之位中納言 童名河次出葛岡
秀吉の子とて江州安土此
城自とて家

勝長

源三郎 童名御坊
武田信玄の子とて

勝良 トウリョウ

源三郎

信秀 ノブヒデ

近江位下侍

重名大洞三春

重法 シゲノリ

信高 ノブタカ

近江位下 在重法 重名小洞

大権現了了所へ向てくまの侍

重隆 シゲタカ

近江位下 重隆

將軍家了了所へ向てくまの侍

家乃段 本丸

信右 のぶみ

後五位下 式部卿 法名道下

了南 のぶ

信貞 のぶさだ

淡路佐下 新樂助 常名内人
後た京亮と号す

寛永元年六月六日死に歳五十一

貞玉 のぶたま

左京亮 付國近江

女子

生官務が書

信好のぶよし

從五位下左京亮

童名長好なながよし

長次ながつぐ

童名縁なまのゆかり

長岑尉

女子

信濟之郎のぶゆき信康のぶやす之家のけ

母名信忠のぶただ信雄のぶおととみ

女子

蒲生飛騨守ふぶき氏うぢ之の書がき

女子

筒井伊賀守つづみや定次さだつぐ之の書がき

女子

藤田肥前守ふじの利長りなが之の書がき

女子

丹羽五郎左衛門長重の書

女子

二系の園白昭實の室

秀雄ひで

後之任の冬議

童の必の之のしの柳

某

母名伊丹の園の具教の郷女
越前大野の城の守の方

安永十五年八月八日卒を歳
二十八 天巖玄高の月の松院と号と

加余 母名秀雄とゆり早世

高碓たかすい

市告場

但馬守たにまのり

信良のぶよし

後四位上

右近衛権左衛門

兵部卿

兼名勝法師

生國守

寛永三年五月十七日

歳四十二 法名 松尾 心善院

女子

女子

福系能登与信通のぶとほの書

女子

信昌のぶまさ

後五位下

同懐与

兼名のぶな百少

生國上卿

寛永十六年十二月辰五位下

叙

某

猿子代

元和九年十月十八日一死

威心法心天心幻生

信友

和雲守 辰心位下侍

信尚

伊守守

友貞

教島助

女子

松原伯耆守重長の書

女子

信為のぶ

伊豫守いよ

良雄りゆう

正五ただ佐上さかみ侍さむらい之の膳ぜん正ただ

長附ながづき

五郎八

女子

秀吉ひでよし書かくく子ことと母はは付づ秀雄ひでおとと同どう

女子

玉方丹後守雄氏の書

女子

家乃紋

將軍義昭より桐は二川雨とたまふ

武衛より瓜の紋とたまふ

織田の家は紋と羽の蝶

織田

● 常高 つとむ

生國尾張 なかつら

順後 のち

生七郎

生國日赤

順久のぶひさ

令后出射

射馬也

生回日亦

織田信長たけだののぶひさは、信長のぶひさの御孫みまごにして、

其後、家回修理亮いせりやう職家しやくけに任じ、

老とれ、膳家ぜんけ没落ぼつらくの故浪人なみのりとあり

く、海に舟着ふねあがりちり、とあり、

病死ひやうじせり、六十七

順高のぶたか

令后出射

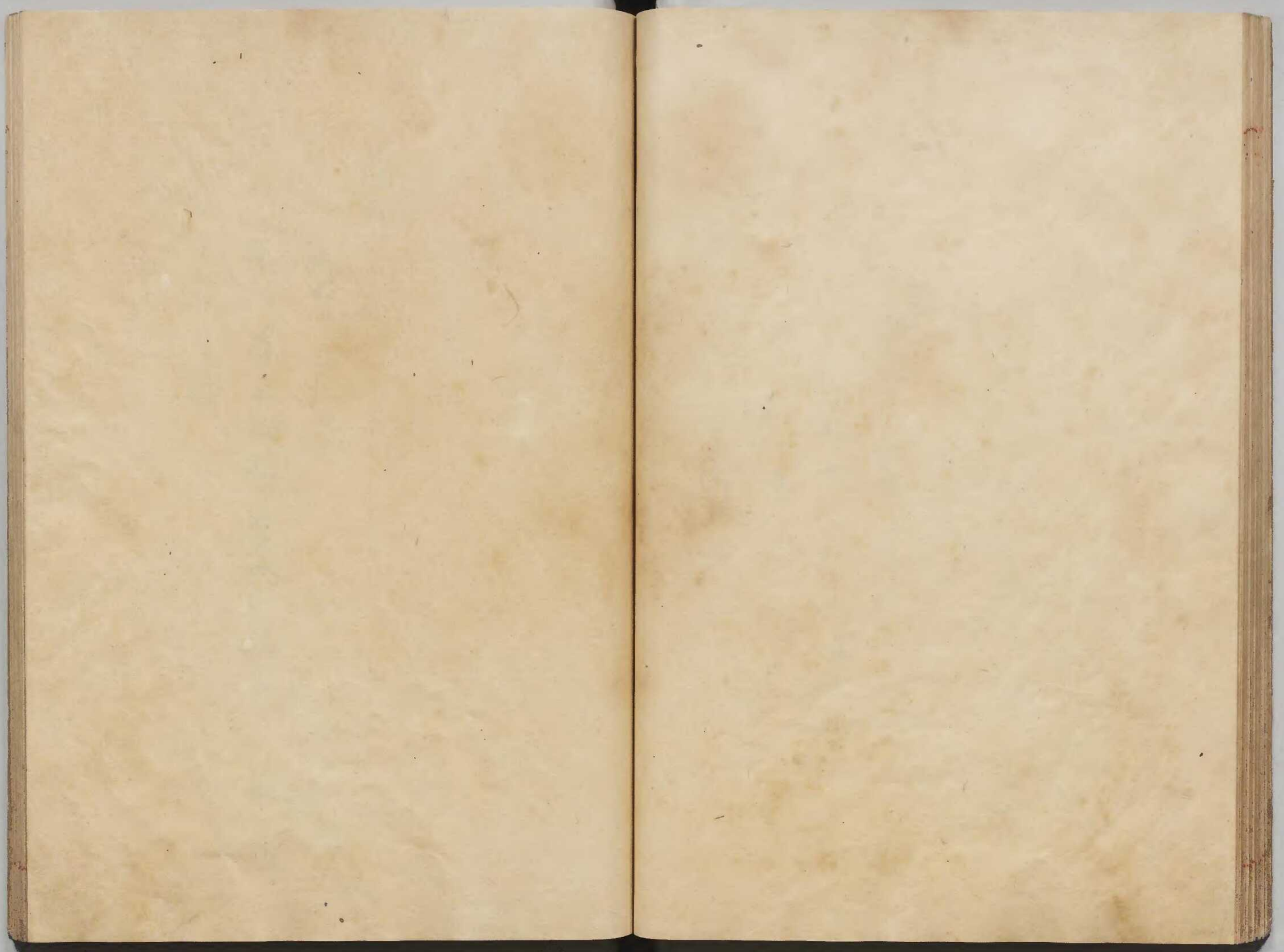
生回日亦

く、海に舟着ふねあがりちり、とあり、

寛永十六年十二月かんえいじゅうろくにんじふにがつに

將軍家しやうぐんけにつく

家次いせ紋もん丸まる



● 信定のぶさだ

鴻つるぎ

織田源正長とよだ げんしょう
尾州春日初郡おびす かつひ しょくぐん
子傳こでんの城しろをとらふ
古名ふるな月つき巖いわ

信正のぶまさ

藏田掃部くらたのぶらふ

法新ほふしん一ひと玄貞げんていと号なづかりて字あざな傳つたへり

博ひろ之のと号なづかり

一正いちまさ

孫左衛門

生玉尾張なまたまのへ

くく〜〜と号なづかり

享長八年きやうちやうはちねんののおお〜

大権おほいけんと号なづかりてては名鉄なてつ使つかひ

正重まさしげ

友左衛門ともざゑもん 十回じゅうかい月つきか母はは、築田きよたもも好このむむ女むすめ

判發はんぱつ一ひとと号なづかり

二安ふたやす

口郎くちらう左衛門

十玉じゅうたま周しゅう也や

孝長十七年乙未 秋

大権現と押し くらまり 取地子

石とき ぬら ち

大坂あ 序し 陣ぢん 休やす 行ゆ 此こ ら

名酒な 院いん 敏みん とし じ

將軍しん 家け 一いつ 行ゆ ける 一いつ 止と まる 家

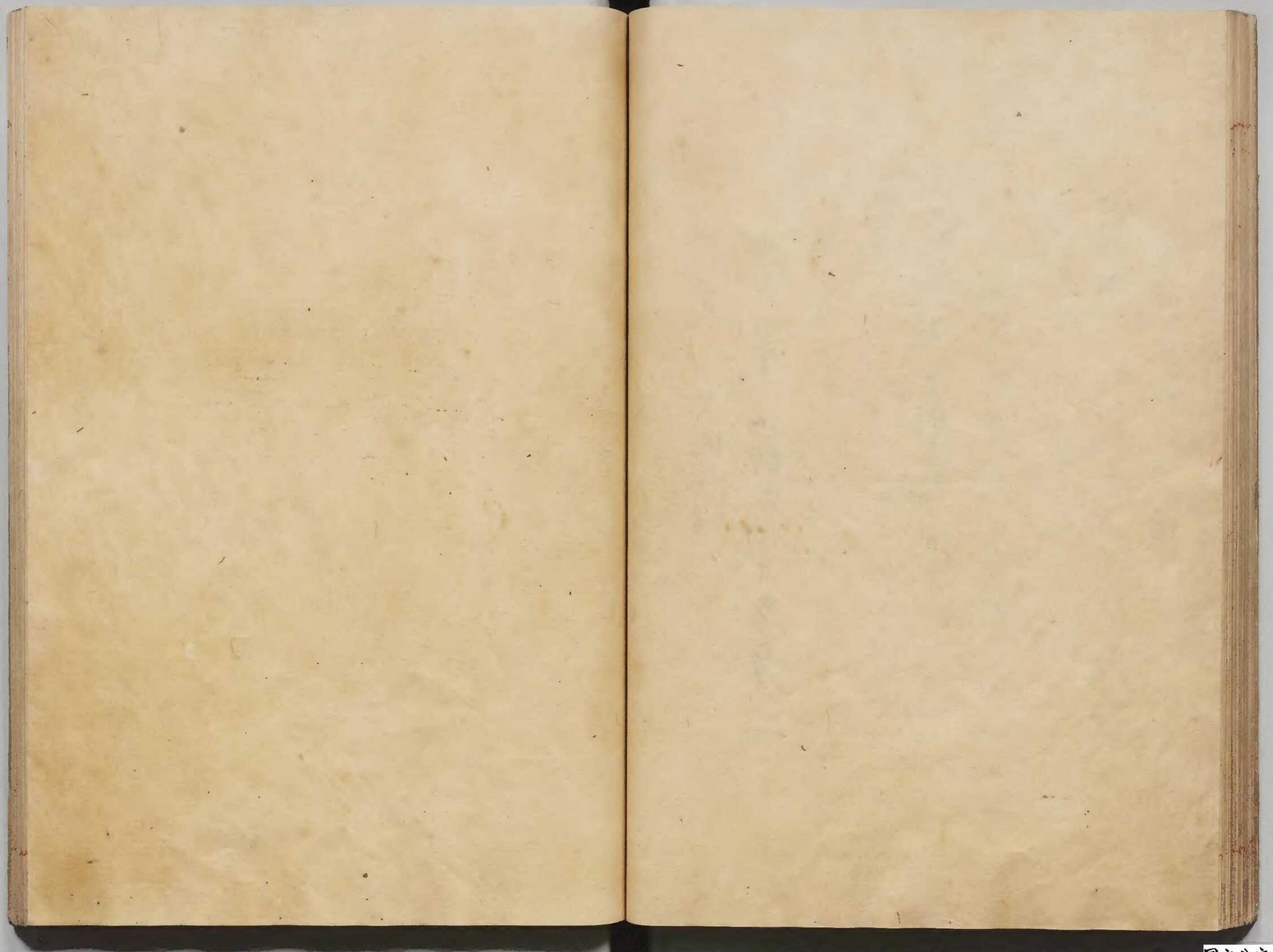
寛永十一年乙未 取地と くらま 一いつ 止と まる 家

正利

赤尾 牛岡うし 橋はし 陣

母はは 吉きち 万里ま 小浜こ 於お 大納お 言こと 言こと 房ふ の 女むすめ

家乃いへ 攻せ 上かみ 解と の 標しるし 凡ま



集

織田駿河守

集

織田利部少輔

中川

織田氏

元和之_レ子_レ也

名_レ源_レ敏_レ一_レ所_レ在_レ也_レ云_レ

寛永十八年_一死_レ

重_子勝

長_子之_子郎

生_子回

武_子藏_子一_レ

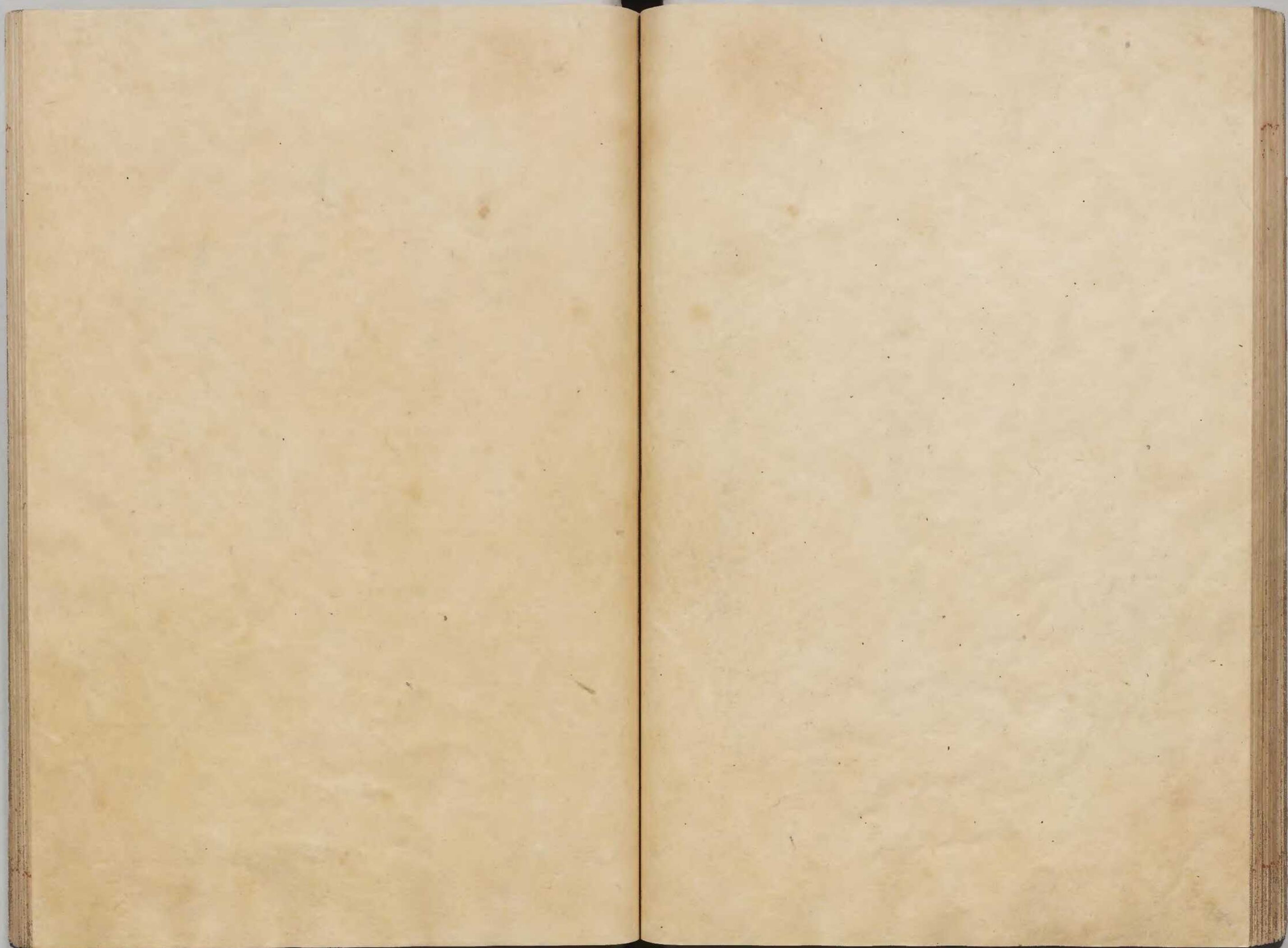
勝_子宗

信_子之_子郎

廿_子回_子日_子舟

寛永七年_一小_子普_子信_子俊_子一_レ云_レ

家_子乃_子紋_子 媽_子酸_子年_子



● 集

津田た

織田おだ 一いち 本ほん 家か

伊賀いげ 守まも 七しち 回かい 尾張おわ

尾州おしゅう 海東かいとう 郡ぐん 松葉まつば 庄しょう の 城しろ 守まも り

家か 守まも り 織田おだ 源げん 正志しょうし 伊賀いげ 貞さだ 守まも り

某

仙傳者 牛國日記
父伊賀守が命より 出家とる
後還俗して 武志修めり 上方
より 中しき 好實体より

清吉

仙者 長太郎 牛國日記

清吉より 織田氏と改く 津田と号し
名乗ると 牛國日記
織田信長より 津田と改く 牛國日記
十八歳より 浪人と 牛國日記
是時より 赴き 河部伊豫守 牛國日記
大に 津田より 牛國日記
牛國日記
牛國日記
大に 津田より 牛國日記
牛國日記
牛國日記

をすまは孫一々四為一々一々
是一々一々一々又信長一々一々
開ヶ尔御陣一々五年一々伏見
林原式部大輔一々一々

大於現一々一々一々一々是より先
是時一々一々一々一々一々於
又顔形一々一々一々
之後一々一々一々一々一々時
大於現御遊湯一々一々一々一々

河石田重頼一成一成一成一成一
一成一成一成一成一成一成一
大於現一成一成一成一成一成一
友とあるは是融人と見知らるり
一成一成一成一成一成一成一
開ヶ尔御陣の時石田信部少輔之成
兄一成一成一成一成一成一成一
一成一成一成一成一成一成一
一成一成一成一成一成一成一

享長五年九月十五日

大権現佐和山（佐和山）表（表）下御出陣（御出陣）ありとく
筑前中納言秀秋及回中（回中）右部痛
小門右佐与父子昭政中務安治月
子安元等（子安元等）佐和山の城
とせ先（とせ先）一し（一し）誓（誓）の契（契）の秀秋
佐和山の切通（佐和山の切通）一し（一し）士卒とひ
ひく城下（城下）一し（一し）秀これとせし城中
り信達とらび子重氏門外（子重氏門外）

へ本秀林（本秀林）が先手の無と相成（相成）にわ二
三交款（三交款）の無併（無併）一し（一し）ひ城かく信達
とらび重氏士卒とら市御一し（市御）ふ
とま我ふと一し（とま我ふと）一し（一し）教（教）無楯（無楯）とか
へ挑（挑）就（就）ふ信達謀術（謀術）とらひく
教（教）とらひく人（人）とら一し（とら）一し（一し）家（家）とら一し（とら）一し（一し）
士卒（士卒）付城の門外（門外）へか一し（へか）一し（一し）
信（信）とら火矢（火矢）とら一し（とら）一し（一し）一し（とら）一し（一し）
一し（とら）一し（一し）信達士卒とら一し（とら）一し（一し）一し（とら）一し（一し）

揚子江の城門のさきびつと開き
突おこしつゝとひく教とくを敗
小と清遠教の先業を色一本の坊
とけりうひ矢さつりと張そ和と
うれを免はしとちる言よとしひ
大於現より舟鐵舟を及回中其船場
ととせ免はしと水のみとさ
りく津田仙若とよ清遠是とす
く一成しはぐ一成清遠しおて

教のり事ときをる一はなり清遠
が、と船一のがみく我城とあは
城守のささるのんとりやん
一和給一人と副ととあ
り一成是と推あしと一人
おほ城守とあは是しとひく
舟鐵五郎をつしあし舟鐵
大於現の旨と述くいと云成既
殿小と汝等達し清遠と一は

是とうごころんを先軍中

捕ふ所の三成、臣鉄炮以奇本帝

と道ふ三成、取小此中より

至り善本よりあるとわら

大行現より御書とより

又

大行現の仰とのべいとは是より

さき女幕下より

と馬道と

貴とたまふ

しと并然し

はく又及運と

うりか

しと并然し

大行現の仰と

しと并然し

謀と

二つ

二つ

大権現りしむらさきと云と遇と云成の
書子としむらさき此書子の命と云
とけし進し陣中と云く成下
とて格使と云く自教一子
を可り云くすけ城郭と云く
由り共盡力云はしうて後進自教を
ふりけしむらさきの中と云る
と云く家と云くしむらさき一威初此計
しむらさき

大権現し使と云くしむらさき
城と云くしむらさき一威初此計
と云くしむらさき

同十七日城申しむらさき
和丸一救火と云くしむらさき
秀秋小川左衛門父子昭攻中務安治月
子孫元等進子と云くしむらさき
ハ橋子と云くしむらさき城申の兵を退流
またはしむらさき一威初此計の

て書子と教一自教らん其のつら
清基とよひ子守氏と教共とぬ
きく命一と命一といく
自教の後教一教火一とれと和
骨と一と城門といふも実か
とたり院一と賜攻西法、撰
行村頼太を米先一とすみ清基と
お教小清基院とわら骨太を米と
と押人質と一と同僚十一人と教

傳とすくふ河一林勘十郎保庇と
一と守氏是とぬとけとる
院一と清基

大権現一と福一と其事と 上同

一と運と

大権現の作は汝昔日暮り下りて
此今の挙動かくしやあるべしと
何清基守氏と御前一とめさる
清基がいちく同僚十一人いづれの

法りしゆふふれんやとよ

大於現世仰り十一人の老女よが知らぬ

かり別べて命めいとさすけは是こと率ひら

く大坂おさかしおとじきをのく宿しゆ仕し

きししとちり是ことちりて

信しん吉きち其この命めいはとと佐さ和わ山さん

の軍ぐん切きりととつとをのく連つらし

宿しゆく仕しとつと信しん吉きち後ご府ふとして

大於現世の約やく命めいととちりて義ぎ直ちやくと

ししよ

大於現世の約やく命めいととちりて

一いつつと平へい定てい之こ計けい親しん名なは命めいとて回わい

信しん吉きちの者ものとて是こと二に人にん

ちと一いつつと軍ぐん事じは一いつつと方ほうは事じ

と秀ひでて是こととつとちりて

とちりて後ご九十くじゅう歳さいとつと死しと

真名として書す主氏はと
みく教無乃諭一りてん事と
おしひく概名とりてん事と
じけこき教乃無とりのあひて
一教無乃無とりてん事と
字とひる
主氏文と同りかされ大御書とつて
寛永七年 納命とてりてん大
御書の御取とてりてん

同十年御地とくを
同十八年上方とてりてん御
の事を所とてりてん

重次

平兵衛尉 上木月か

寛永十八年

將軍家とてりてん

月十九年 納命とてりてん

伊予院書を所と心

重正しげまさ

長右衛門 十四日

寛永十九日

將軍家へはるまゝくま

重永しげなが

八助

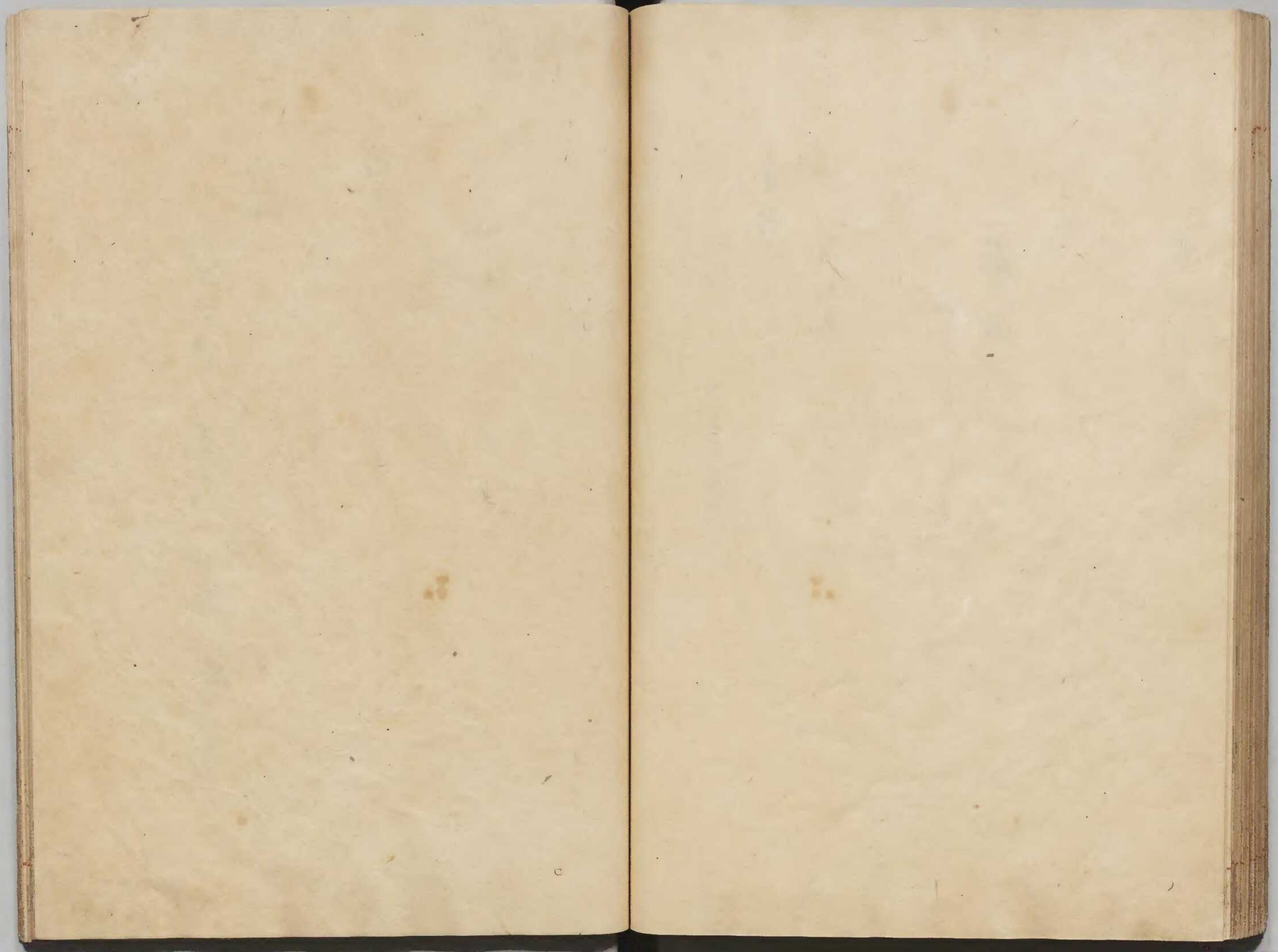
長右衛門

重右しげみぎ

長右衛門

十四日

家の紋



秀敏 ひそ

織田七郎

玄蕃 げんぱん

生玉丸 なまたま

敏定 とし

津田 つた

秀守 ひでたけ

織田七郎 後付田七左衛門
生國分亦

正秀 ただひで

小平次 生國分亦
秀右 ひでたけ 秀右 ひでたけ 秀右 ひでたけ 此後
大於現と おほ

名 正秀殿 ただひで

慶長五年 用原 せきなが 陣 じん 付 つ

元和元年 大坂 おおい 陣 じん 志 し 取 と り

~~~~~

寛永十二年 正月二十九日 死

歳九十 姓名無卷 なづか

正守 ただひで

平左衛門

生國分亦



言古河小山之邸正晴の子り正秀

正秀十三子後府よし

又於現一福一子りま所り後

名酒院敬一子りま所り

家の後



● 永<sup>ひ</sup> 継<sup>つ</sup>

織<sup>う</sup> 田<sup>た</sup> 太<sup>た</sup> 馬<sup>ば</sup> 允<sup>いん</sup>

牛<sup>う</sup> 四<sup>し</sup> 尾<sup>び</sup> 張<sup>ちやう</sup>

藤<sup>ふじ</sup> 掛<sup>か</sup>

織<sup>う</sup> 田<sup>た</sup> の 末<sup>すえ</sup> 流<sup>りゅう</sup> りり 永<sup>ひ</sup> 勝<sup>かつ</sup> 二<sup>に</sup> 歳<sup>さい</sup> 一<sup>いつ</sup> 々  
又<sup>また</sup> 永<sup>ひ</sup> 継<sup>つ</sup> 一<sup>いつ</sup> 々 々 外<sup>そと</sup> 祀<sup>まつり</sup> 又<sup>また</sup> 藤<sup>ふじ</sup> 掛<sup>か</sup> 氏<sup>し</sup>  
善<sup>ぜん</sup> 子<sup>こ</sup> と 千<sup>ち</sup> 子<sup>こ</sup> 取<sup>と</sup> 一<sup>いつ</sup> 々 藤<sup>ふじ</sup> 掛<sup>か</sup> の 祿<sup>ろく</sup> 号<sup>ごう</sup>  
と 中<sup>ちゆう</sup> ち 好<sup>こう</sup>







永成なが

六郎左衛門 七回抄録

寛永四年

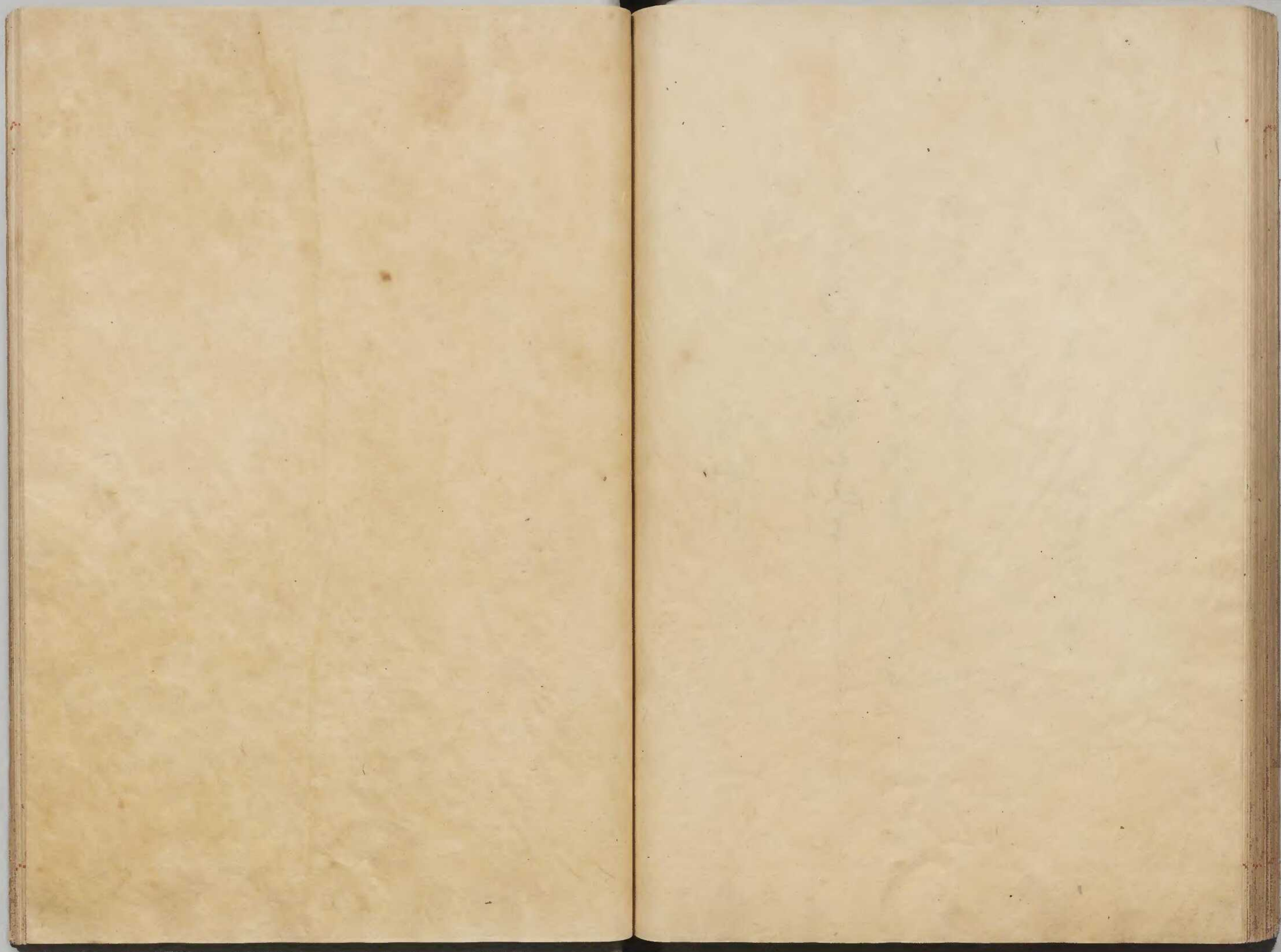
將軍家一湯見一きくまの  
日五子一わ御番と所心

永後なが

監物 七五後河

家乃紋 七五後河







果

梳門

魚イサ集ツミ 生ナマ國クニ之ノ河カハ小コ河カハ  
武タケ回クハ信シロ玄クニ所トコロ之ノ魚イサ冑ウラ士シ之ノ木キ又マタ金カネ我ガ  
乃ナリ之ノ河カハ紀キ



忠助

四郎次郎 七回後河

文禄元年

東照大権現

...

肥前...

忠久

七回 七回武院

久和...

名酒院...

正次

喜且...

將軍...

寛永十五年...

病死



正室

七郎兵衛 七回後河

寛永三年三月十五日

將軍家より湯へ

忠正

太兵衛

寛永十六年六月十日

將軍家より湯へ

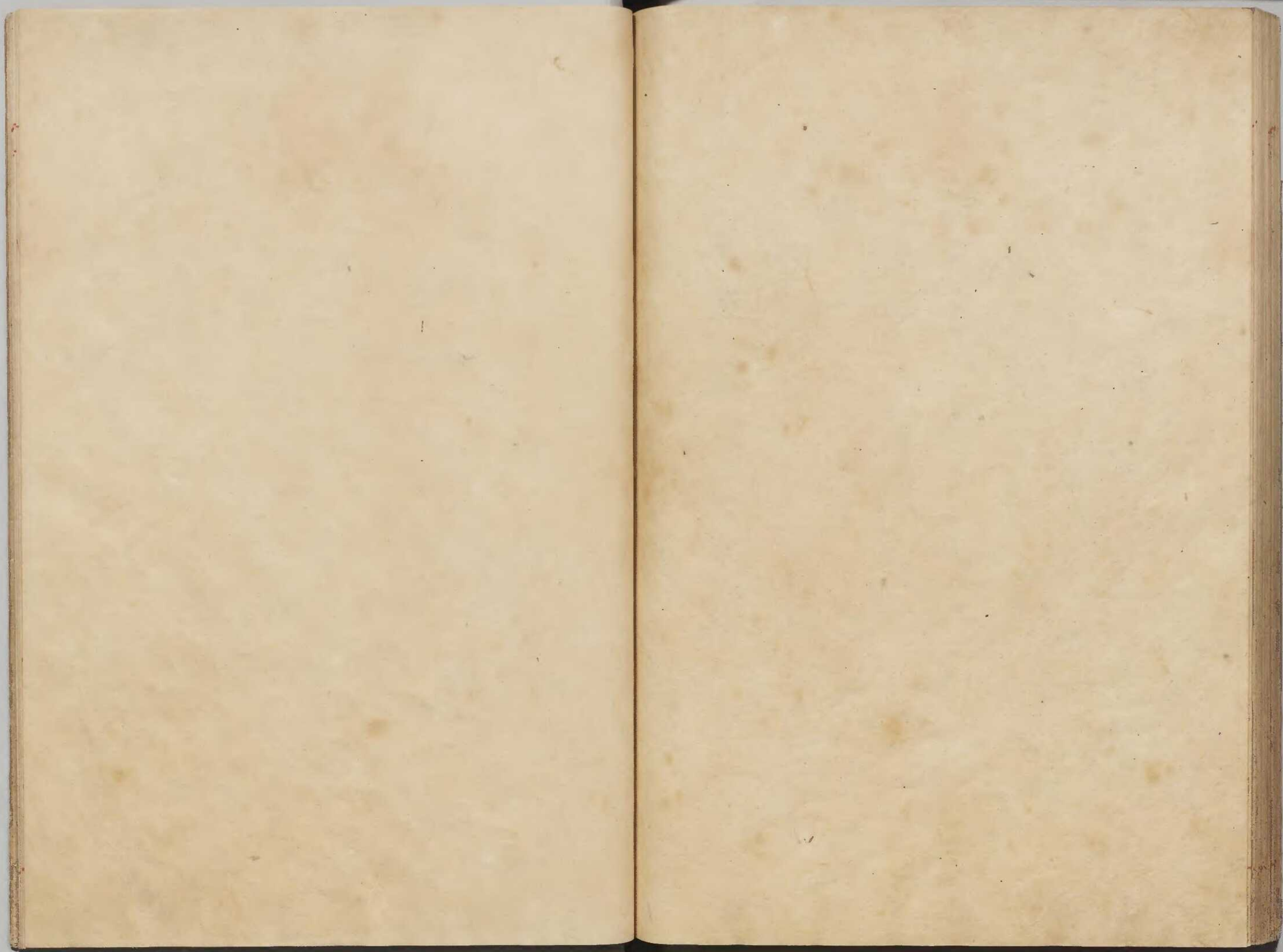
正後

虎藏 七回武藏

將軍家より湯へ

象の紋櫃の象







● 集

既川

織田の膝からあふる  
くさくさ

平九郎 法名宗玄

秀

平九郎尉 七回瓦張



織田源正忠たけだ げんせいしゅ一い尾州奥村おしゅうおくむら  
七しち十じゅう歳さい一いくく死しと

一秀いっしゅう

孫まご之の郎らう 生なま四よ日にち前まへ

織田信長たけだのぶなが一い信のぶ人のぶ志し志し軍ぐん功こう切きり

一い靈れい場じやう院いん義ぎ昭しやう志し本ほん流りゅう一い多た

一い多た一い多た一い多た一い多た一い多た一い多た

一い多た一い多た一い多た一い多た一い多た一い多た

一い多た一い多た一い多た一い多た一い多た一い多た  
死しと 法ほふ名な淨じやう哲てつ

一秀いっしゅう

七しち高かう太た高かう尉ゑい 生なま四よ日にち前まへ

信のぶ長なが一い尾お州しゅう瑞すい成じやう乃の城じやう

任にんと

永えい祿りく三さん也や今いま川がわ上かみ結むす合あ義ぎ允いん上かみ流りゅう



一秀と中務の海ととき義久此  
無とち坊一秀技珠と一  
とひく軍切あり王時加増と一  
尾州の海と一とひく三百歩の地と  
たまふ  
信長意本とせしころ一秀右威  
と抽と橋州伊丹の城とす  
入討死四十二歳 是名海志

秀利

と五郎 廿四日か  
文禄四年  
大於現一と人  
孝長二月十月らるる三十三歳  
是名海志



分勝

年七郎 廿四日

文祿四年

大相現

孝長

同十八年

十月十七日

死

法名

分好

本屋射 廿四日

孝長十四年

名酒

大坂

之和二年

將軍家



勝守

年七郎 壬辰武苑

年長十八年

大権現

又攻支那陣

久初二年

台酒院

寛永二年五月

一死

は名

重昌

玄屋尉 壬辰武苑

久和二年

將軍家

守良

年七郎 生玉

寛永二年



名酒流敵しはくをせしむ

同九年より

將軍おゆしつうをよきまのち

秀盛

五右衛門尉 牛國尾張

くさくはの備田信隆ようごふ秀吉

お州小田原の城とせしむるも信隆

秀盛と撰なりしと

秀吉の舞と伝ふる時波年此城を

羽守守お輝政しるるひる舞湯

川の城しるるは國の賊徒城と

しるるも秀盛城守しり殺陣

しるるもかしるるい死と六十歳

法名淨孝

合巻

旭十郎 牛國武苑



寛永十八年六月分至二十一歳

しつとめく

將軍家一好傷一さくまの侍

同十九年六月より御小姓の書

しつとめ

家の後四一重菊後一南打家

中一子二歳一没



